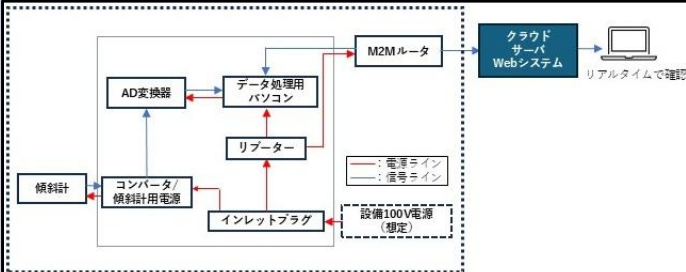
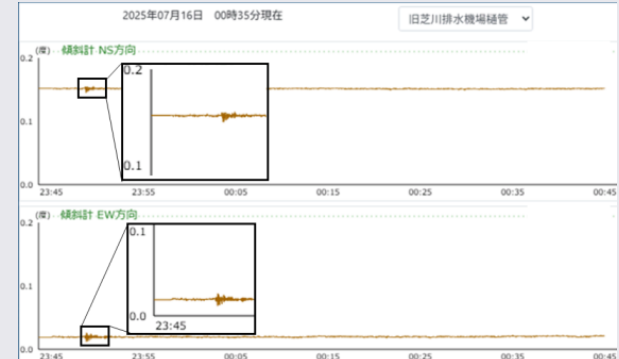
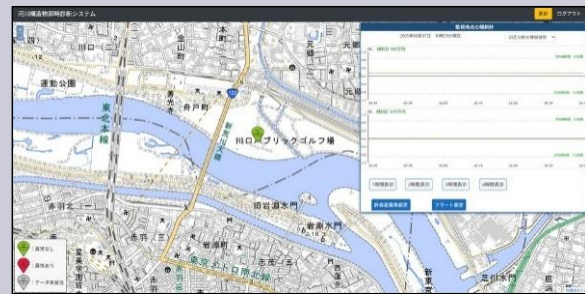


現場実証概要(令和7年現場実証結果)

技術名	傾斜計を用いた河川構造物の即時診断システム				
技術概要	本技術は、傾斜計を用いた樋管等の施設（水門等）に対する地震発生後等の被災状況を遠隔かつリアルタイムで診断する仕組みである。具体的には傾斜計の観測結果が許容変異角を超えるとメール通知および地図上の当該施設の位置が赤色で着色され、被災結果が俯瞰的に把握できる。許容変異角は、施設毎に数値設定が可能であり、傾斜計の観測データは最大6時間前までグラフで閲覧できる。複数の施設に対してトリアージが可能であり、優先度に基づいた対策が可能となる。		▼傾斜計システムの構成 		
実証結果	旧芝川排水機場樋管に傾斜計を約半年間設置し、施設の挙動を観測した。観測期間中に6回震度1の揺れを観測した。震度1のうち、マグニチュードが最も大きい7月15日23時47分に発生した地震による傾斜角の変動を右図に示す。水平方向および鉛直方向いずれも地震発生から3分後の23時50分頃から約2分間変動を観測し、施設の傾斜が確認された。※最大傾斜角は許容値以内であった。引き続き、観測・データ収集を行い、本システムの評価を実施する。		▼傾斜計の観測結果 		
現場実証状況	▼傾斜計の設置方法 		▼傾斜計（現地設置状況） 		
	▼傾斜計システム表示画面 				
問合せ先	開発団体名 パシフィックコンサルタンツ株式会社 計測検査株式会社		担当者 九州支社 SI事業部 情報政策室 担当：三田・高倉 連絡先：jouhou-seisaku-kyuushuアットマークtk.pacific.co.jp		TEL 092-286-0211